

ビワ生育情報

第 9 報
千葉県農林水産部
令和 7 年 6 月号

6月1日現在の果実の発育は「楠」、「大房」、「田中」の3品種とも平年並み～やや早く、「楠」の収穫は5月下旬、「大房」の収穫は6月上旬から始まっています。収量は前年より多いと予想されます。

1. 果実の発育

6月1日現在のビワの果径を表1に示した。横径は「楠」が4.36cm、「大房」と「田中」は3地区の平均がそれぞれ5.04cm、4.71cmで、「楠」、「大房」は平年と同等、「田中」は平年より長かった。

縦径は「楠」が4.72cm、「大房」と「田中」は3地区の平均がそれぞれ5.33cm、5.28cmで、「楠」は平年と同等、「大房」と「田中」は平年より長かった。

果形指数は「楠」が0.92、「大房」と「田中」は3地区の平均がそれぞれ0.95、0.89で、3品種とも平年並みであった。

着色程度は「楠」が4.0、「大房」と「田中」は3地区の平均がそれぞれ3.9、3.3で、着色の進みは3品種ともに平年より早かった。

暖地園芸研究所の収穫は、「楠」は5月22日、「大房」は6月1日に始まった。本年作は樹内でも出蕾がばらつき、開花の遅れがみられたため、4月1日時点での果実の肥大は平年より遅かったが、4月以降は、平均気温が高く推移したため、収穫期は平年並み～やや早くなった。

本年は着花房率が平年より高く、寒害の発生は少なかった。また、果樹カメムシ類及び鳥害の発生が前年より少なかった。以上のことから、最終的な収量は前年より多いと予想される。

表1 果実の発育（6月1日の果径）

品種	調査地	横 径 (cm)			縦 径 (cm)			果 径 指 数			果 色		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
楠	暖地園研	4.36	4.43	4.34	4.72	4.77	4.82	0.92	0.93	0.90	4.0	3.3	4.0
大房	青 木	4.69	4.97	5.12	4.98	5.13	5.31	0.94	0.97	0.96	3.8	3.2	4.0
	南 無 谷	5.23	5.06	5.55	5.62	5.26	5.74	0.93	0.96	0.97	4.0	3.3	4.0
	暖地園研	5.21	5.09	5.53	5.41	5.17	5.64	0.96	0.97	0.98	3.8	3.2	4.0
	平 均	5.04	5.02	5.40	5.33	5.19	5.56	0.95	0.97	0.97	3.9	3.2	4.0
田中	青 木	4.18	4.50	4.72	4.91	4.99	5.03	0.85	0.90	0.94	3.1	2.2	3.9
	南 無 谷	5.13	4.51	4.61	5.39	5.05	5.41	0.95	0.89	0.85	3.4	2.2	3.5
	暖地園研	4.81	4.58	5.05	5.55	5.06	5.83	0.87	0.91	0.87	3.3	2.2	3.9
	平 均	4.71	4.53	4.79	5.28	5.03	5.42	0.89	0.90	0.89	3.3	2.2	3.8

果形指数：横径／縦径

平年：平成7年～令和6年の30年間の平均

南無谷は平成10年～令和6年の27年間の平均

2. 令和7年5月の気象

令和7年5月の半旬別の気象を表2に示した。平均気温は第1、第3、第4、第5半旬は平年より高く、第2半旬は平年並み、第6半旬は平年より低く推移した。月平均気温は18.9℃で、平年より0.4℃高く、前年より0.5℃低かった。

降水量は第1、第2、第5、第6半旬は平年より多く、第4半旬は平年並み、第3半旬は平年より少なかった。月合計は205mmで平年の134%、前年の90%であった。

日照時間は第1半旬は平年より多く、第3半旬は平年並み、第2、第4、第5、第6半旬は平年より少なかった。月合計は120時間で平年の64%、前年の67%であった。

表2 令和7年5月の気象(アメダス館山市)

半旬	平均気温 (℃)			降水量 (mm)			日照時間 (hr)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
1	17.8	17.2	17.6	54	22	29	38	31	43
2	17.6	17.7	18.4	53	24	19	17	30	27
3	18.7	18.1	19.5	4	26	56	31	29	28
4	21.4	18.6	19.1	24	25	52	16	30	32
5	20.4	19.3	20.3	36	25	0	6	31	19
6	17.6	19.8	21.4	36	31	72	12	36	30
平均/計	18.9	18.5	19.4	205	153	228	120	188	179

平年：平成3年～令和2年の30年間の平均

なお、表の数値は、表示単位未満を四捨五入したため合計値と内訳の計が一致しない場合がある。

3. 7月の作業

7月に入り梅雨が明けると、本格的な夏を迎える。収穫後に弱っていた樹は勢いを取り戻し、夏枝の伸長が盛んになるが、根の伸びは鈍くなる。7月の作業は夏の乾燥期に向けた草刈り、刈り草敷きや、カミキリムシの防除がある。

(1) 草刈り

梅雨明け時期に園内の草刈りを行う。高温乾燥期に草を生やしておく、草に水分がとられ、土は乾燥状態になりやすい。土が乾燥すると花着きはよくなるが、過度の乾燥は樹を弱らせる。草刈りを行い、土の乾燥防止のために刈り草は樹冠下に敷く。

(2) カミキリムシの防除

カミキリムシはリンゴ、イチジク、クワ、ビワなどを加害する枝幹害虫で、ビワに寄生するのはクワカミキリが多い。体長は4cm位、体は黒色地に暗黄色の短毛が密生している。幼虫は枝幹中に食入し、木質部を食べて育ち、枝の中心部を食い荒らすため、被害を受けた枝は折れやすくなり、甚だしい場合には枯死する。また、食入部の傷口からがんしゅ病が感染することがあるので、注意を要する。成虫は産卵のために、7～8月に現れるので、朝夕の活動の鈍いときに捕殺する。卵は見つけ次第つぶす。防除に際しては千葉県農作物病虫害雑草防除指針に従う。

発行：千葉県農林水産部生産振興課園芸振興室

【問合せ先：千葉県農林総合研究センター暖地園芸研究所特産果樹研究室

電話 0470-22-2961】

※果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生育情報」でも御覧いただけます。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>